

第1回大阪府総合教育会議

議事録

日 時 平成27年6月19日(金) 13時半～14時25分

場 所 大阪府公館 大サロン

出席者 知事 松井一郎

教育長 向井 正博

教育委員 立川 さおり

教育委員 井上 貴弘

教育委員 竹若 洋三

1 開会

(榮野企画室長)

ただいまから第一回大阪府総合教育会議を開催します。本日の司会は、政策企画部企画室榮野が務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

開会にあたりまして、知事からご挨拶を申し上げます。

(松井知事)

本日は、お集まりいただきありがとうございます。このたび、知事と教育委員会が公の場で教育政策について議論をする「総合教育会議」が、法律で位置付けられました。

私は、以前より住民の声を教育に反映させること、そして教育に係る権限と責任を明確にすることが重要だと考えていました。このため、大阪府においては、平成24年3月に全国に先駆けて、知事が教育に関する計画を策定することを定めた教育行政基本条例を制定し、翌25年3月に「大阪府教育振興基本計画」を策定いたしました。

あわせて、これまでから教育委員会と意見交換を行いながら、生徒自身が行きたい高校を自由に選択できるよう、学区を撤廃したり、グローバル社会で活躍できる力を身に付けるため、英語教育を充実するなど、協力して様々な取組みを進めてきたところです。

今後とも、この会議を通じて、教育委員会とさらに意思疎通を図りながら大阪の教育の課題やあるべき姿を共有していきたいと思っています。教育委員会には、より一層民意を反映した教育行政を推進していただきたいと考えているので、よろしくお願いいたします。

2 議事

<議題1：大阪府総合教育会議について>

(資料1「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正」について、水守教育総務企画課長が説明した。)

(資料2「大阪府総合教育会議運営要綱案」について、榮野企画室長が説明し、承認された。)

<議題2：大綱の策定について>

(議論の前提として、大阪府教育振興基本計画の策定に至る経緯について、松井企画課長が説明し、その後、資料3「大阪府教育振興基本計画の概要」について、水守教育総務企画課長が説明した。)

(向井教育長)

この教育振興基本計画ですが、大阪府の教育行政基本条例に基づきまして、知事が教育委員会と協議をして策定されたものです。教育委員会としても、この計画に基づき、毎年の運営方針を作成いたしまして、各種の施策を実施しているところです。

私としては、この教育振興基本計画を「大綱」と位置付けるということが妥当ではないかと考えているところです。

(松井知事)

この教育振興基本計画を教育委員会と策定し、目標を掲げてやってきた経緯があります。

今、向井教育長の理解を得たということなので、ぜひこの教育振興基本計画を大綱に定めさせていただくということでもよろしいでしょうか、教育委員の皆さん。

(立川委員)(井上委員)(竹若委員)

了解。

(松井知事)

ありがとうございます。

(榮野企画室長)

それでは、議題2については、「大阪府教育振興基本計画」を法に規定する「大綱」として定めるということにしたいと思います。

＜議題3：意見交換＞

(榮野企画室長)

この機会に、教育委員会の方から特に議論したい内容等がございましたらよろしく願いいたします。

(向井教育長)

先ほど大阪における教育の「大綱」と定められました、この「教育振興基本計画」に基づきまして、知事からの格別なご配慮を賜りながら、学力向上、いじめ等の問題行動対応につきましても、市町村と共に現在取組みを進めているところです。

また、生徒の「学び直し」を支援する高校であるエンパワメントスクールの設置、府立支援学校の新校整備についても、おかげさまで順調に進んできております。学力・いじめ対応等につきましても、これまで松井知事とも意見交換をさせてもらってまいりました。

本日は、これらに比べましてこれまであまり議論ができておりませんでした、子どもたちの「体力づくり」につきましてもご議論をお願いしたいと考えています。体力づくりは、子どもたちの成長の源、よく動いて、よく食べて、よく休むことで身体を鍛え、豊かでたくましい精神を育み、ひいては学力向上や、次代を担う自立した大人となる力を身に付けることができると考えています。

事務局から、体力づくりに係る大阪の子どもたちの現状やこれまでの取組み等について、説明させていただきますので、ぜひ忌憚のないご意見を賜りたいと思っております。

(資料4「大阪の子どもたちの体力づくり」について、植山保健体育課長が説明した。)

(向井教育長)

今少しご説明させていただきましたが、大阪府教育委員会としては、学力・学習状況調査の対応に比べて、この体力・運動能力調査の方は、各市町村、各学校に対して、これまで支援を、ある意味してこなかった状況でしたので、今後は大阪体育大学やガンバ大阪などの力をお借りいたしまして、特に今年度は、希望する市町村、小学校に何とか大学生の力を借りて指導してもらい、来年の予算については、改めて検討したいと考えています。

(松井知事)

先ほどのアンケート調査で「スポーツが嫌い・やや嫌い」の理由は聞いているんですか。「好き・やや好き」と答えた子どもは、ほっておいても運動する。この「嫌い」の理由は、

(植山保健体育課長)

この調査におきまして、「スポーツが嫌い」と答えた多くの児童・生徒は、「小学校入学前から体を動かすことが苦手だったから」などを理由に挙げております。児童・生徒に運動をたくさん覚えさせる、経験させるということを今後やっていきたいと思っています。

(松井知事)

そうすると、小中学校だけでなく就学前の状況、家庭とか、保育園、幼稚園の時に、体を動かすことが苦手ということでは。ちょっと信じられないけれど。これから本当は体力がどんどんついていく年代なのに、小学校に入る前に下降してしまっている。結局、そういうことが原因になってくると思うがどうですか。それは、やはり保育園を所管する福祉部や、幼稚園を所管する市町村教育委員会が、小学校に行く前から体力を落とすのではなく、体力が伸びていくように協力してやっていくのが、一番重要なのかなと思います。

(竹若委員)

昨日か一昨日でしたか、テレビで足の裏が浮いた状況というのをデータで取っていました。5本の指が揃ってきっちり地面についてというのが基本的らしいですけども、第3指か4指あたりの指が浮いておると。そうすると体のバランスが取れないばかりに、重心が後ろにかかる。それがそのままいけば、姿勢が悪くなるというようなこともやっておりました。

それだけではなく、今、子どもたちを取り巻く生活環境そのものが、体力を増強するのではなく、むしろ弱くする要素がたくさんあるわけですけども、それは、今、知事がおっしゃった幼少時からの運動と言いますか、生活の中にどのように取り入れるのかが大きな課題だろうと思っています。過去、私どもの市町村で教育行政に携わっていた時に注目したのは、幼稚園の活動の時間です。ただ単に、遊ばせているのではなく、指導する幼稚園の先生方が、どういう意識を持って子どもたちを導くかということが非常に重要になります。

それと併せて事務局にもお尋ねしたい。このデータは大阪府の人間からすれば、非常に残念な結果ですが、今後の方策として、いろいろイベントをお考えいただいている。これは、とても大事なことだと思います。子どもたちにこういう夢を持たすということは、例えば、ドッジボール大会でありますとか、縄跳びのジャンプアップ大会でありますとか、現場の子どもたちを見ておりますと、非常に意欲を持って取り組んでもらっているのも事実でございます。ただ、私はここで一番望みたいのは、この出てまいりましたデータそのものをどう分析し、活かしていくか。その辺は如何でしょうか。

(植山保健体育課長)

このデータで、大阪の特徴といたしますと、小中学校全ての種目において全国平均より下回っているということと、特に20mシャトルラン、それと反復横跳びが低いです。しかし、全ての種目を比較しますと、多くの種目で改善されつつあります。大阪府内の市町村全てで平均より落ちているわけでもないですが、全体の中でそういう結果となっている。ただ、20mシャトルランと反復横跳びの全国平均との差が大きいので、ここを改善していけば、全国平均に負けないレベルになる可能性もあります。

(竹若委員)

確かに20mシャトルランというのは、子どもにとってみたら一番魅力のない種目なんですね。先ほど申し上げた私が勤めておりました市も、シャトルランの非常に評価が低くて、そこで、先生方が指導をする時に、シャトルランの意義をどこまで子どもたちに指導したのかということにメスを入れました。すると随分変わりました。特にこのシャトルランは、やればやるほど評価が伸びてくる訳ですから。

そこで、お願いしたいのは、大阪府の全体の子どもたちの体力運動能力というものを、府全体として分析をし、その分析の結果、恒常的な要素を市町村が一緒になって、子どもたちと作っていかなければ、同じところぐるぐる回るんじゃないかなと思っています。

ご案内の通り、全国では、福井県が体力運動能力というのは全国一を保っています。私もかつて疑問に思い、福井に行きました。福井県では、なんと昭和38年から50年間、毎年毎年、体力テスト・運動能力テストによるデータを各学校が持ち寄って、分析し、いい評価の学校のノウハウをそれぞれ持って帰り、また、それを取り入れる。これを約50年間繰り返したと伺い、なるほどなと思いました。大阪府では全てをすぐにできると思いませんが、教育振興基本計画期間の間である29年を目途に、そういうデータを分析できる組織を改めて作っては如何かということをご提言させていただきたいと思っております。保健体育課の所管の中で、小学校体育研究会、中学校体育研究会、高等学校体育研究会ございますね。この既存の組織を上手く使って、大阪府内の子どもたち一人ひとりの体力・運動能力向上を目指す、そういうプロジェクトを是非作っていただき、そして、あわせてこういうイベントをやっていけば、結果は出てくるのではと思います。ご検討のほどよろしくお祈りしたいと思います。

(植山保健体育課長)

委員のおっしゃる通りですが、市町村も、それぞれ色々とデータを取っています。学校全体で体力運動能力の向上のための目標を設定している小学校の割合は、25年度は27.7%であったのが、26年度は79.3%に増えてきた。また、体育の授業以外の時間に体力向上に取り組む小学校の割合も26年度は79.5%。100%にいてないので、まだ不十分ですが、取り組み出している市町村も増えてきたと考えております。

また、先ほどおっしゃいました、小中学校の体育研究会の方にも、色々な取組みの中で、小学校にもご支援いただくようにというお願いもしておりますが、そこまでは至っておりません。

(井上委員)

僕は2013年の10月から委員を務めていますが、大阪府教育委員会は、ずっと力入れてきた英語や、エンパワメントスクール、支援学校などはしっかり議論されてきたかなと思いますが、一つだけ、僕も非常にスポーツが好きなので、そこが、やや優先順位落ちたなというふうに思っていたタイミングで、向井教育長からこれが出てきて良かったなと思っています。

今、僕は東京、世田谷に住んでいますが、特にやっぱりオリンピックが近いということもあって、非常に子どもたちが、スポーツに関心を持っています。僕の家で、顕著

な面で言いますと、近隣のテニススクール、錦織選手の影響もあると思うんですけども、20人、30人待ちで入れないとか。あと、フェンシングスクールなんかも、すごい人気が出てきたということで、これはすごく子どもにスポーツの関心が高まってきているなど。特に東京、関東圏はオリンピックの影響があって、ただ、まだまだ大阪とか関西圏に波及していないというふうに思っていて、これを何かのひとつの流れにしたいなと思っています。

やっぱり今の子どもは、僕らの子どもの頃から比べると遊びにくい、体を普段から、動かしにくい環境にある。昔だったら、自転車でいろんなところに行けたと思いますが、今やっぱり、いろんな危険があって、家の近所でしか遊べないとか。あと、公園にせっかく集まっているんだけど、ゲームをやったり、スマホをいじっているというようなことがあって。これはやっぱり、習慣をつけていくっていうことになるので、学校でしっかりやっけないといけないなというふうに思っています。

最近、スポーツの家庭教師みたいなものが非常に流行っているそうです。なかなか今までみたいに自然の中で遊んでいる、自由に子どもが遊んでいるという環境で養われた運動能力の向上というのがもうできない。すると、親御さんからすれば学校でしっかりやってくれないのだったら、じゃあもう週末に家庭教師をつけて、かけっこをやらそうとかいうようなことになってきています。やっぱりしっかり学校でやっていくというのは、すごくいいことだなと思っています。

もう一つは、自分の仕事で、少し高齢者の健康増進みたいなものに携わっていて、高齢者向けに健康増進、いわゆるロコモティブシンドロームを抑制するような体操のエクササイズプログラムというのを提供しています。その中で言われたのは、実はそれだけでは医療費の抑制に将来つながらない。中高年や高齢者になって、いきなり運動してくれというのは、なかなかハードルが高い。やはり、子どもの頃から運動する習慣をつけるためにですね、さっき竹若先生おっしゃったように、楽しく運動できるようになる仕組み、例えば、お笑いを入れて何かスポーツできませんかみたいなことを言われたりします。何が言いたいかというと、こういう習慣を、しっかり子どもの頃から付けていくのは大事なかなと思います。

もう一つは、さっきのシャトルランに近いところがありますが、僕は仕事で歌舞伎とか映画とかお笑っていうものに携わっていますが、ここにいる皆さんも歌舞伎を小学校で観にいかれたことあると思いますが、大概、かなり古典の歌舞伎を観せられて、大人になるまで歌舞伎って眠いなっていうようにずっと感じるのだと思います。それと同じことがシャトルランで起こるような気がしています。やっぱり何か楽しく運動ができる仕組みっていうものを作っていただきたいなと。

例えば、この前たまたま、元陸上のメダリストの為末さんが、ラグビーの清宮さん達を集めてスポーツ庁ができるので何か提言しようみたいな会があって、スポーツのすそ野をどう広げるかというときに、皆さんが言っていたことの一つとして、いろんなスポーツを観せたらいいんじゃないかと。さっきと逆で、歌舞伎もおもしろい歌舞伎を初めに観たら、歌舞伎って楽しいと思うと思いますが、スポーツも、やはりいろんなスポーツを観させて、

楽しいんだよということを体験させてあげること。もう一つは、親しみやすいスポーツということで、今、「ゆるスポーツ」みたいなことを始めている方がいらっちゃって。例えばハンドボールだとハードルが高いので、ハンドボールをするのに手に石鹸を付けて遊びながらやるみたいな、そういったところで色々なスポーツを観てもらおう、楽しく体験してもらおうということを、子どもの頃から、幼少期からやっていくことを進めています。高齢者になったときに病院に行かない、医療費かからないという社会をつくるためにも、非常に重要なというふうに考えていますので、しっかり取り組んでいきたいと考えております。

(松井知事)

今の井上委員の話については、健康医療部の方にもいろんなデータがあると思うので、そこは是非連携してもらいたいと思います。まず今子どもたちの体力をつけて、健康寿命と平均寿命をグッと近づける。医療が非常に発達したので、平均寿命は延びているけれど、社会の問題として健康寿命と平均寿命の差がこのまま拡大していくと、非常に大きな負担を納税者にかけることになる。将来、今の子どもたちの時代には、健康寿命イコール平均寿命みたいなところにいけるのかなと。それには、食育というのも大事なので、そこは教育委員会として、健康医療部の方とも連携しながら進めてもらいたいと思います。

(立川委員)

知事がおっしゃっていたように「嫌い」とか「やや嫌い」というのは、非常に私ももたない残念に思いました。今、4歳の子を持つ親としても、幼児期というのは本当にひと時もじっとしていない、体を動かしたい時期です。それが、小学生になったら「嫌い」、「動かすのがいや」という子になるというのが想像できないです。

最近、娘を遊ばせる際に、竹若委員がおっしゃっていたように、やはり昔と比べて車が増えたり、移動が自転車と車になったり、階段の上り下りが減ったりということもあるのかなと思っています。東京都の教育委員会で「外遊びを1日毎日60分以上」という運動を小学校で義務化したというお話を聞いたことがありまして、そこまでしないと運動ができていないのかなと感じていました。運動は遊びだと思いますが、外遊びの経験の少なさというのを日ごろから感じております。保育園ですと、保育園の滞在時間が長いですから、保育者の意識で相当変わってくると思いますが、土日は、家庭の大人、地域の人たちの意識が、子どもの遊びの部分にシフトしないと、意外と今の子どもたちは、自分たちで自ら何か遊びを創造するという環境にないと思っています。なので、竹若先生もおっしゃいましたが、教師の意識という点、また保護者の意識を変えていくということも大事なかなと思っています。

私自身が運動を嫌いにならず、ずっと好きでいるのはなぜか、ふと考えました。ドッチボールも、ジャンプアップも、駅伝も年度を変えてですが全部見たのですが、運動が好きな子は多分ずっと大好きだと思います。強化という部分で、オリンピック選手になっていくような、スポーツ大好きな子というのはどんどん育っていく可能性もあると思うんですが、やはり運動を全くしていない、全然遊んでいない子たちがどのように遊んでいるのかを考えた時に、私自身はどんな遊びをしてきたかなと思うと、縄跳びなんかも一人でもで

きますし、ゴム跳びとか。自分がどういうふうにして縄跳びで遊んだのかなと思ったら、学校で縄跳び、ジンギスカンというリズム体操というんですか、あれが大好きで、どんどん級を進めていくと、縄跳びにテープを張ってくれました。柔道でいうと、黒帯みたいなものを最後もらえるのです。裾野を広げるという意味で、縄跳びなんかもよいと。

イベントも大事で、そこへ向かって行く子はきっと運動が大好きなんだけれども、全然運動していない子をどうするかという施策については、幼稚園なり小学校の教育の場では、もう少し分析しながら毎日できること、アスリートに教えてもらわなくてもできることを行う、そして、感動体験として、そういうスポーツ選手なりアスリート、あこがれの選手と出会っていくというのもひとつかなと思います。

(向井教育長)

色々なご意見いただきました。私が小さい時は、遊びイコールある意味スポーツみたいなところがあり、何人か集まれば野球やソフトボールをやっていました。現状はそういう場所もなく、そういう集団的な遊びというよりも個別に遊ぶという形になっている。それ以外に、当然ゲーム等、いろんな遊びも増えてまいりましたので、行政がどこまで入っていくかというのが非常に大きな課題であろうと思っています。しかし、ここまで体力の低下ということになれば、環境も変わってまいりましたので、教育委員会として、学校教育の現場でどんなことができるか。また、家に帰ってから、家庭の中でどんなことができるかも含めまして、少し研究をさせていただいて、予算要求に繋げていきたいなというふうに感じております。

(松井知事)

結局、向井教育長や僕らの時代はそれしか遊びがない。缶蹴りやろうが、何しようがずっと走っているんだから。「外で遊んでおいで」といったら、外でテレビゲームをしているようなのは話にならない。そういうところを家庭と一緒に、そこを少し注意してもらわないといけない。保護者に「お宅のお子さん体力落ちますよ」という意識を持ってもらえるかどうかですね。今の時代だから、一切携帯を持たないでとかは言えないと思うけど、それを注意してもらうのと、「体力落ちますよ」というところを、是非保護者に理解してもらうように伝えていけば、少しずつでも改善されるんじゃないかと思います。

(榮野企画室長)

ありがとうございます。体力づくりに関しまして、他よろしいでしょうか。体力づくり以外の課題につきまして、知事の方からございますか。

(松井知事)

今、話のあった体力づくりと非常に重なってくる、関連してくると思いますが、井上委員が言われたように、テニスやりたい、運動の家庭教師を雇いたい、でも貧困といった家庭環境のために出来ない、という状況にある子どもたちがいっぱいいる。子どもたちが、あまりにも家庭の状況によって、体力も格差が出る、学力にも格差が出るというようなことにならないように、対応、対策を考えていただきたいと思っています。

(向井教育長)

知事からの健康、また貧困については、教育委員会の中で出来ることは限られており、

これまでも健康医療部、福祉部、商工労働部等、連携をして進めてきましたが、今後はより一層連携を深め、大阪府トータルで取り組んでまいりたいと考えております。

(榮野企画室長)

この件に関して、ご意見はございますか。

(井上委員)

さっき知事がおっしゃった、格差が体力も学力も差を生むということで行くと、僕の家近くの自由が丘駅というのは、「塾銀座」と呼ばれているくらい、小学校受験、中学校受験、高校受験、大学受験の塾が全部集まっているようなところで、夜の9時くらいになると、小学生がばーっと塾から帰ってくる、これは私立の中高一貫校が東京は非常に強いから。これは地域性だと思いますが。ただ、東京の人と話をしても、「大阪はすごく府立高校が充実していますね」という話をよく聞きます。私立の中高一貫に行くのは悪いことではなく、選択の問題だと思いますが、府立の高校がいいということは、それだけ公立の小学校、中学校を経ても、そういったある意味の経済格差を乗り越えて、学力をつけるとか、スポーツでチャンスを得るとというのが、何か開かれている街であるのかなと思います。先ほど教育長がおっしゃったように、色々な府庁の部局と連携して、様々なバックグラウンドの子でも、将来色々なチャンスをつかめる街にできるように、一層事務局の方々と連携してやっていければなど。そこは非常に強く思っています。

(榮野企画室長)

ありがとうございます。それ以外の課題等についても、ご意見等ありましたらお願いしたいと思います。もしなければ、最後に教育長からまとめをお願いします。

3 閉会

(向井教育長)

本日は第一回目ということで、総合教育会議、このような場を設定いただきまして、本当にありがとうございます。本日、貴重なご意見いただきまして、早速、私どもとしては体力向上に向けた取組みを、これまで以上に進めてまいりたいと考えております。この大阪総合教育会議の設置を契機に、知事とは更なる意思疎通を図りまして、大阪の教育の課題、またあるべき姿につきまして共有をし、ご支援を賜りながら、充実・発展に努めてまいりたいと考えております。本日はどうもありがとうございました。

(榮野企画室長)

以上をもちまして、第1回大阪府総合教育会議を閉会します。